

事業の背景・目的

・地域の生態系、人体、農業に被害を及ぼす可能性のある外来生物の侵入や定着を防止することを目的とする。具体的には関係機関の連絡体制の構築、県民に対する正確な情報提供による注意喚起などを行なうことで、県内未定着の外来生物の早期発見・早期防除を目指す。

事業の内容

<p><u>ア コンテナ取扱事業者への指導強化事業</u> ・ヒアリ等の早期発見・早期防除のため、港湾関係者、行政職員、民間企業、NPO団体、一般県民等を対象とした外来アリ対策技術講習会を開催した。</p>	<p><u>イ 県内市町等との連絡会議の開催</u> ・市町、関係部署、関係団体等との連携を図り、外来生物の早期発見・早期防除等を推進するため、外来昆虫等連絡会議及びアライグマ・ヌートリア対策連絡会議を開催した。</p>	<p><u>ウ 県民向けガイドラインの作成</u> ・外来生物の通報窓口の明確化や正確な情報発信を図るため、ヒアリ、アカカミアリ、クビアカツヤカミキリに関する啓発資料を作成した。</p>	<p><u>エ 外来生物セミナーの開催</u> ・行政職員、関係機関、民間企業、NPO団体、一般県民等を対象とした外来生物セミナーを開催した(外来生物対策総論、クビアカツヤカミキリ対策技術講習会)。</p>	<p><u>オ 水生外来生物の調査</u> ・淡路市江井地区のため池に生息する水生外来生物(オオクチバス等)について環境DNA分析技術を用いて調査を行い、分布マップを作成した。</p>	<p><u>カ クビアカツヤカミキリ検討会の開催</u> ・県内未侵入のクビアカツヤカミキリ対策として県関係部署、学識経験者との連携を図り、啓発、通報体制、初動対応等を検討した。</p>	<p><u>キ 緊急用薬剤等の配備</u> ・県内未定着であるクビアカツヤカミキリが発見された場合に早期防除を行うためのガードネットと施行道具等を購入し配備を行った。</p>
--	---	--	--	---	--	--

得られた成果

- ・外来昆虫等連絡会議及びアライグマ・ヌートリア対策連絡会議を設置したことで、県内41市町、関係部署、関係団体等との連絡体制の構築ができ、外来生物についての理解が進んだ。
- ・県民向けガイドラインのうち、ヒアリ、アカカミアリ、クビアカツヤカミキリに関する啓発資料を作成した。
- ・外来生物セミナーの開催により、外来生物を発見した場合の対処方法を普及啓発することができた(R2開催セミナー参加者合計238人)。
- ・水生外来生物調査では、淡路市江井地区のため池に生息する水生外来生物(オオクチバス等)を環境DNAで調査し、生息分布が分かった。
- ・クビアカツヤカミキリ検討会の開催により今後の対策方針や各関係部署がすべきこと、啓発、通報体制、初動対応等の整理ができた。
- ・クビアカツヤカミキリが発見時の防除資材を県民局と病害虫防除所の計8箇所へ備蓄した。クビアカツヤカミキリ検討会で協議したとおり、通報が入り次第、最寄りの備蓄拠点から資材を提供できる防除初動体制の構築ができた。